

たまねぎレポート【第442号】



令和6年8月27日

阪南青果株式会社

社内報

7月の天候は、気温は、全国的に高かった。日本の月平均気温は1898年以降で7月としては最も高かった。降水量は、北日本の日本海側でかなり多かった。日照時間は、沖縄・奄美でかなり多かった。8月は盆が過ぎても、台風接近後も猛暑が続き残暑が厳しい。

気象庁の9月～11月の3か月予報では、平均気温は、北日本で高い確率50%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率60%。降水量は、東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並みまたは多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

10月、北日本と東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。東・西日本の日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の7月の野菜の販売量は、195,454トン前年比96%（前月比99%）。平均単価はkg ¥275前年比107%（前月比103%）。総体的には数量減の価格高となっている。市場別の販売量の前年比と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥264前年比107%。東京市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥282前年比105%。名古屋市場の販売量は前年比93%、平均単価はkg ¥270前年比109%。大阪本場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥284前年比110%。福岡市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg ¥220前年比111%となっている。

東京都中央卸売市場7月の野菜の入荷量は105,346トン前年比96%、

前月比(99%)。旬別の前年比では、上旬96%、中旬105%、下旬87%、となっている。平均価格はkg¥285前年比105%。旬別では、上旬¥265(前年比97%)、中旬¥286(同105%)、下旬¥305(同114%)となっている。主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、ナマシイタケが前年比116%、ハクサイが107%、キャベツが102%の3品目。前年比減の品目は、ナスが前年比84%、キュウリが89%、バレイショ・ハウレンソウが91%、タマネギが92%など12品目。価格が前年比高は、バレイショがkg¥254で前年比145%、タマネギが¥177で143%、キュウリがkg¥380で128%、ニンジンがkg¥181で124%、レタスがkg145で117%など9品目。前年比安は、キャベツがkg¥77で前年比79%、サトイモがkg¥493で83%、ピーマンがkg¥446で92%、ナマシイタケがkg¥916で94%、ダイコンがkg¥89で97%など6品目となっている。

東京都中央卸売市場の7月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	105,846	95.7	98.6	285	105.3	101.1
たまねぎ	7,474	91.7	100.2	177	143.4	109.3
キャベツ	15,546	102.3	107.6	77	79.3	91.7
はくさい	5,814	106.8	106.1	77	103.8	111.6
だいこん	6,918	96.5	106.1	89	96.6	96.7
にんじん	5,059	98.6	77.6	181	123.8	80.1
ばれいしょ	3,651	90.5	68.1	254	145.3	81.4
レタス	9,157	95.1	120.6	145	116.6	115.1
ねぎ	3,366	98.2	98.4	336	100.2	90.8
トマト	6,451	97.1	91.5	362	97.0	108.1

きゅうり	6,305	89.4	96.9	380	128.1	168.1
かぼちゃ	1,739	91.5	96.5	273	127.1	104.2
ながいも	787	105.6	109.0	373	84.6	97.4
れんこん	397	105.2	261.2	532	106.8	49.1
にんにく	135	89.9	99.3	1,142	125.7	108.9

玉葱の概況

需要(市場)の動き

建値(拠点)市場の7月の玉葱の販売量は18,529トンで前年比94%(前月比100%)、平均単価はkg¥169前年比144%(前月比111%)となっている。中晩生の作柄が全国的に前年を下回ったが、高値市況を反映して出荷が前進化したことで、出回り量の落ち込みが予想を下廻り、前月並みの入荷となったが、需要が堅調で高値を維持した。

7月の拠点市場別の玉葱販売量と単価は、札幌市場の販売量は1,791トン前年比100%、平均単価はkg¥159前年比128%。東京市場の販売量は7,474トン前年比92%、平均単価はkg¥177前年比143%。名古屋市場の販売量は3,934トン前年比87%、平均単価はkg¥165前年比148%。大阪本場の販売量は3,470トン前年比107%、平均単価はkg¥169前年比151%。福岡市場の販売量は1,860トン前年比97%、平均単価はkg¥155前年比138%となっている。

東京市場

東京都中央卸売市場の7月の玉葱の入荷販売量は7,474トン、前年比92%(前月比100%)。主力は兵庫物で入荷量は3,176トン前年比76%、占有率43%前年比8ポイントダウン。佐賀物が1,333トン前年比79%、占有率18%前年比3ポイントダウン。北海物が974トン前年比377%、占

有率13%前年比10ポイントアップ。香川物が442トン前年比81%、占有率6%前年比1ポイントダウン。中國物が375トン前年比263%、占有率5%前年比3ポイントアップ。愛知物が267トン前年比107%。愛媛物が234トン前年比101%。総平均価格はkg¥177前年比143%(前月比109%)。産地別では、兵庫物はkg¥196前年比154%。佐賀物はkg¥184前年比145%。北海物はkg¥163前年比101%。香川物はkg¥183前年比153%。中國物はkg¥112前年比102%。¥愛知物はkg¥144前年比135%。愛媛物はkg¥148前年比163%。となっている。主産地の兵庫・佐賀物の入荷が大幅減となり、品薄高が続いた。

8月に入り、府県物は一部の荷受けに集約され、北海物主力の入荷となった。品質的には品種により多少のばらつきがあったものの、SN種が少なくなったことで昨年に比べクレームが少なく品質は向上した。盆明けから入荷安定で値頃販売が出来るかと予想していたが台風の接近で入荷乱れの情報あり、相場は保合を維持した。その後の入荷は順調で、L大¥2,500以下を目論んでいたが、今日は亦台風10号の接近予報で取り敢えずの手当て買いが目に付く。今週から市況は軟調に転じると予想していたが、大型台風10号の接近予報で買参人の手当て買い需要で保合相場となった。

8月1日から20日までの玉葱販売量は、5,736トン前年比101%(前月比114%)、平均単価はkg¥178前年比129%(前月比84%)。産地別の入荷量は、北海物は前年比20%増となっているが、佐賀・兵庫は大幅減となっている。産地別の入荷量と平均単価は、北海物は入荷が4,238トン前年比122%、平均単価はkg145前年比123%。兵庫物は816トン前年比59%、平均単価はkg¥202前年比158%。富山物は308トン前年

比220%、平均単価はkg¥106前年比105%。佐賀物は59トン前年比12%平均単価はkg¥208前年比182%。となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の7月の玉葱販売量は3,934トン前年比87%（前月比84%）で前年比、前月比とも大幅減となっている。主力は兵庫物で数量は2,596トン前年比89%、占有率は66%で前年比1ポイントアップ。北海物は535トン前年比77%、占有率14%前年比1ポイントダウン。富山物は322トン前年比117%、占有率8%前年比2ポイントアップ。ニュージーランド物は148トン前年比162%占有率4%、愛知物は119トン前年比79%となっている。

8月になり、北海物主力の販売となった。兵庫物は切り上がりが早く、品薄で仕切値が高く、採算割れになることが多かった。早目に北海物にシフトを試み引き合いが多くなって来たが、盆需要は意外に低調で、数量的には予想を下回った。北海物はいずれの地域もL大中心の球流れで、品質は良好であった。盆明けも北海物の入荷は順調で、荷動きも良く在庫は殆どない。今週末には台風10号の影響で入荷減が予想されるので、今日・明日の入荷分を大事に販売したい。

大阪本場

大阪中央卸売市場本場の7月の玉葱の販売量は3,470トン前年比107%（前月比109%）、前年比、前月比とも増となっている。産地別の販売量は、兵庫物が2,830トン前年比100%（前月比117%）、占有率82%前年比5ポイントダウン。北海物が189トン前年比188%（前月比236%）、占有率5%前年比2ポイントアップ。愛媛物が139トンで前年比148%、占

有率4%前年比2ポイントアップ。佐賀物のは97トン前年比62%(前月比28%)、占有率3%前年比2ポイントダウン。大阪物が55トン前年比120%、占有率2%。総平均単価はkg¥169前年比151%(前月比104%)で、前年比、前月比でともに高値となっている。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥176前年比156%。北海物はkg¥145前年比128%、愛媛物はkg¥128前年比173%。佐賀物はkg¥179前年比144%、大阪物はkg¥148前年比147%。となっている。

8月に入って、兵庫物は減少傾向で完売が続いたが、L・Mは上値多いが2Lは上値少なく中値～下値が多かった。北海物は卸会社では、多少の値下げ販売を意図したが、仲卸の盆需要の手当て買いで値下げ販売は出来なかった。その後、南海地震警戒予報の中で、早期に手当て買いを済ませた仲卸に様子見ムードが見受けられ、やや弱含みの市況となった。盆明けは、兵庫物は入荷少なく、引き合い強く相場堅調。淡路の産地では、出荷要請を受けた出荷者でも最低量の冷蔵物の確保が必要で、高値でも出荷を見送る向き多く、堅調相場が続いている。北海物も再度の台風接近上陸の予報で堅調相場が続いている。

8月1日～20日までの玉葱の販売量は2,047トン前年比94%(前月比(85%))。平均単価はkg¥156前年比142%(前月比95%)。産地別の販売量と平均単価は、北海物は1,178トン前年比153%、平均単価はkg¥142前年比133%。兵庫物は818トン前年比59%、平均単価はkg¥179前年比161%。となっている。入荷は兵庫物の大幅減、北海物の大幅増となり、平均価格は前年比大幅高となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の7月の玉葱販売量は1,860トン前年比97%(前月比95%)で、前年比、前月比とも減となっている。主力は佐賀物で、販売量は1,272トン前年比96%、占有率68%前年比1ポイントダウン。中國物が197トン前年比144%、占有率11%前年比4ポイントアップ。北海物が114トンで前年比92%、占有率6%前年比1ポイントダウン。兵庫物が75トン前年比148%、占有率4%前年比1ポイントダウン。総平均単価はkg ¥155前年比138%(前月比114%)。産地別の平均単価は佐賀物がkg ¥165前年比142%。中國物がkg ¥86前年比100%。北海物がkg ¥94前年比102%となっている。

8月に入って、佐賀物は終了末期で、入荷減と品質低下で、客離れから荷動きは低迷。北海物はJA北みらい、JAふらの中心の入荷で、台風襲来予報で駆け込み需要が発生したが、輸送の乱れで入荷減となり、対応に苦労した。昨今は更に台風10号の接近予報で、入荷激減で品薄状態となっている。当面、北海物の直送品の入荷は少なく、欠品が発生しそうで非常に困っている。

8月1日～20日の玉葱の販売量は1,299トン前年比106%(前月比98%)で前年比増、前月比減となっている。平均単価はkg ¥157前年比138%(前月比119%)で前年比前月比でとも高値となっている。

8月26日(金)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量114トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥2,500~2,000、L大 ¥2,500~2,000、 L ¥2,000~1,700、
M ¥1,800~1,400。

北 海 20kgNT2L ¥2,100~2,000、 L大 ¥2,200~2,000、 L ¥1,800~1,700
M ¥1,600~1,300。

【太田市場】 販売量309トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,700~2,500 L大 ¥2,700~2,500、 L ¥2,300~2,200、
M ¥2,200~2,000。

【名古屋北部市場】 販売量138トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,600~2,500、L大 ¥2,600~2,500、 L ¥2,300~2,000、
M ¥2,100~2,000。

【大阪本場】 販売量185トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥3,000~2,500、 L大 ¥3,000~2,500、 L ¥2,300~2,200
M ¥2,000~

兵 庫 10kgDB2L ¥2,200~2,000、 L ¥2,200~2,000、 M ¥1,800~1,700。

兵 庫 20kgDB2L ¥4,000~3,800、 L ¥4,000~3,800、 M ¥3,600~3,400。

【福岡市場】 販売量198トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,700~2,600、L大 ¥3,000~2,700、 L ¥2,700~2,400
M ¥2,300~2,000。

供給(産地)の動き

8月の前半には、兵庫以外の府県産地の即売物の出荷は殆ど終了した。北海物は高温による生育前進化と市況高で出荷が前進化し、8月前半の出荷は大幅に増加している。府県物の切り上がりは平年よりも、10日程度早い。8月後半からの市場出荷は北海物主力に兵庫物の一部が追随する構図となった。

府県産地

佐賀、今年の出荷は終了し、生産者は来シーズンの準備を始めている。今シーズンの高値市況を反映し、生産者の多くは、北海物の作柄情報に神経を尖らし、次シーズンの栽培種子の選定を考慮している。いずれにしても、極早生・早生は増反傾向となるも、中晩生は減反となる雰囲気である。

兵庫、即売物の出荷は、JA系統に9月出荷計画分の若干の残量が見受けられるものの、殆ど終了した。今年の夏は、猛暑続きで冷蔵保管以外は品質管理が難しく、冷蔵保管以外は品質低下でロス率が高い。商系の殆どは既に冷蔵物を出荷している。冷蔵在庫量は、現在、関係機関で調査中だが、前年比50%以下になると推測している。今シーズンは高値続きで、生産者を始め集出荷業者も過分の高収入を得たが、次シーズンの作付は現状維持または減反となりそうだ。

北海道産地

北海物では早生系は豊作となったが、夏の高温で生育が前進化したが、この先収穫・出荷期を迎える中晩生は高温の影響で平年作と見受けられる。天候は地域的に多少の差はあるものの、総じては高温により、枯れ上がりが早く、圃場格差はあるものの、球肥大は総じて平年よりやや細い。行政の

8月15日現在の生育状況の報告では、全道的に生育は進んでいるが作柄は平年作となっている。地域別の生育状況は、石狩では8月前半の平均気温は平年比2.9℃高く、日照時間は平年比88%、降水量は96%、球肥大はやや細い。空知では平均気温は平年比3℃高く、日照時間は91.9%、降水量は99.6%、球肥大はやや太い。上川では平均気温は3.1℃高く、降水量は8.2%で少なく、日照時間は104%で、球肥大はやや細い。オホーツクでは気温は平年より高く、降水量・日照時間は平年並み。球肥大は96%で平年並みとなっている。

輸入動向

7月の輸入は速報値で、22,341トン前年比127%。府県産の生産減で中晩生の出回り量が前年比減となり、高値市況が続いたことで、輸入物への関心が深まり、前月に続き前年を上回る輸入量となった。国別では、中国が20,740トン前年比121%、(中国からは、他に凍結物が2,639トンの輸入がある)。ニュージーランドが1,272トン前年比942%。オーストラリヤが326トン前年比112%となっている。

此の先、年内の輸入は中国とアメリカになるが、詳細な情報は入手出来ていないが、概略は次の通り。

中国、産地は甘肅省で作柄は平年作を上回る模様。日本向け価格は20 kg・C&F・\$6.00。

アメリカ、総じて平年作だが、産地価格が高く、50 ㍩・JAMBO・C&F・\$17.00。の異常高となっている。

9月の市況見通し

8月の市況は、南海地震や台風の襲来予想と天候不順に悩まされ、変調を余儀なくされている。9月は北海物の出荷が本格化し、需給は安定化すると見ている。今年の府県物は、いずれの産地も切り上がりが早く、9月以降は北海物の独壇場となる可能性が強い。北海物は早生物は豊作型であったが、中晩生物は概ね平年作と予想されている。産地が特に価格にこだわらなければ、市況は安定化し、8月よりもやや安値で推移し、中心的相場は20kgL大¥2,500~2,000の水準で推移すると予想している。今年、8月、9月の天候も異常が懸念されることから、収穫量や品質に変化が生じれば、変動相場となり、輸入物の増減材料となる。(笹野敏和記)